

食と環境保全特別コース

Progress

食と環境保全特別コースの現状と今後の展望について

9月24日に前身の日本の食の安全特別コースの最後の留学生を送り出しました。また、10月に食と環境保全特別コースの2期生（通算17期生）5名の入学式を行い、16期生6名と日本人学生2名と合わせて13名体制で現在特別コースを運営しています。食と環境保全特別コースでは農学分野の幅広い専門での教育と研究を行うので、選択科目も多く、カリキュラム実施にあたっては、事務方の絶大なる協力の上で何とか円滑に行われており、大いに感謝をしています。コンソーシアム企業も食品系企業のみならず化学系や医薬品企業から多く参画していただき10月25日現在16社になりました。これらの企業の中には、すでに学生とともに訪問させていただいた企業もあり、学生と共に新たな視点を得ながら、コンソーシアム企業への理解を一層深めることができました。今後是非とも多くの企業を訪問したいと考えており、ご協力をお願いいたします。

また、10月3日に行われた入学式にはコンソーシアム企業4社に参加頂き、その後の16期生の間発表表、コンソーシアム会議、企業の紹介および16期生との面談を行っていただきました。また、学生との面談に関しては企業様から見た個々の学生の印象なども教えていただきました。これらの情報は今後の学生の就職支援に有効に活用させていただく予定です。遠方からお越しいただき、長時間にわたるご参加とご協力に深く感謝いたします。

特別コースは、学生（留学生と日本人学生）とコンソーシアム企業様と大学が連携して双方がWin-Win-Winの関係を構築しながら約80名の修了生を輩出してきました。食と環境保全特別コースに変わってもこの理念を継続していきますので、多方面にわたるご協力とご援助をよろしく願っています。

（川村教授）



食と環境保全特別コース 16・16.5・17期生

News

15期留学生修了式・17期留学生入学式



15期生の修了式にて

令和7年9月24日（水）香川大学農学研究科において第15期留学生の修了式が執り行われました。今年も修了生の就職先の方にも来賓として本学にお越しいただいての開催となりました。

上田学長より修了生に学位記が授与され、来賓の方からも門出のお祝いと温かい激励のお言葉をいただきました。今年の修了生は1名だけでしたが、地元香川県内企業での就職でもあり今後の活躍が大いに期待されています。

令和7年10月3日（金）香川大学農学研究科「食と環境保全特別コース」2期目、前コースから17期目となる留学生5名の入学式が執り行われました。

上田学長より歓迎と激励の言葉をいただき、四国経済産業局地域経済部部長山下様からもご祝辞をいただきました。新入生たちは初めての日本式セレモニーで緊張もありましたが、皆様からのお祝いの言葉に元気をいただき緊張もしだいにほぐれたようでした。新入生代表ソータンさんから聞き取りやすいしつかりとした日本語での新たな出発の決意表明があり、本コース学生達のこれらの日本での生活に期待と希望が持てました。

これから始まる日本での生活には不安もあるでしょうが、日本文化にも触れ有意義な大学生活を送ることができるよう願っています。

（樋口特命教授）



17期生の入学式にて

News

17期生の紹介

今年度は、ベトナムから2名、ミャンマー、スリランカ、インドネシアからそれぞれ1名ずつ計5名の新入生を迎えました。それぞれが香川大学で学ぶことを心待ちにし、渡日前からオンラインでの日本語教育を受け、晴れて10月に入学しました。これからがんばって参りますので、ご支援の程よろしく願っています。

- ①フリガナ
- ②氏名（名字・名前・ミドルネーム）
- ③指導教員（研究分野）
- ④最終学歴
- ⑤出身国
- ⑥今後の抱負



- ① ヴオン チュン クアン
- ② VUONG Trung Quang
- ③ 高田悟郎教員（応用酵素化学）
- ④ ハノイ工科大学
- ⑤ ベトナム出身

⑥香川大学に特別食品コースで入学し、多くの有益な知識と研究スキルを身につけたいと思っています。また、友人を作り、文化交流を行い、日本語能力を高めることも私の目標です。



- ① ソー タン サンデイ
- ② SOE THAN Sandy
- ③ YONEKURA Lina 教員（食品化学）
- ④ アサンプション大学
- ⑤ ミャンマー出身

⑥このコースを通して、先生方や仲間と協力しながら、多くのことを学び、成長していきたいと思っています。留学中は、研究や勉強に全力で取り組むと同時に、日本語の力も伸ばしたいです。とくに日本語能力試験N1に合格したいです。将来はPhDに進学し、食品科学の分野で研究を続け、人々の健康や社会に役立つ研究者になりたいと考えています。



- ① ネルシ オクタビアニ
- ② Nelsi Oktaviani
- ③ 豊田鮎教員（土壌生態学）
- ④ ハサヌディン大学
- ⑤ インドネシア出身

⑥人間は完全に自然に依存している。この価値観は地域社会や森林の中で存在し、受け継がれてきたと私は信じている。香川大学で学びながら、日本人が自然を大切にしている地域価値を研究する方法と、自然との共生を実現する価値観を発見したい。



- ① パティラナ マルシャ ゴータミ
- ② PATHIRANA Malsha Gothami
- ③ 杉田左江子教員（植物分子育種学）
- ④ ペラデニヤ大学
- ⑤ スリランカ出身

⑥修士課程を修了後、この分野の専門知識をさらに深めるために博士号を取得する予定です。私の主な目標は、学術研究と実際の業界での経験を通じて得た知識とスキルを応用し、世界の食糧安全保障と持続可能性に貢献することです。長期的には、日本とスリランカの架け橋となり、協力関係を促進し、世界市場に利益をもたらす革新的で持続可能なソリューションの交換を目指します。



17期生入学式の様子